

第12回（平成28年度 第1回） 東近江市市民協働推進委員会 会議録

◆開催日時 平成28年6月30日（木）午後7：00～9：00

◆開催場所 東近江市市役所新館 315会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、森井源藏、細居悦子、太田裕子、築山清美、森下瑠美、  
北井香、荷宮将義、大林恵子、大橋正徳、板倉元  
事務局 川南総務部理事、まちづくり協働課 福井、村田、池戸、村井  
(傍聴者：0人)

◆議事

- 1 正・副委員長の選出について
- 2 委員会の概要等について
- 3 『共に考え、共に創る わがまち協働大賞』について
- 4 意見交換（協働で取り組むしくみ）

◆会議録

開会

**【事務局より開会のあいさつ】**

\*初回の会議のため、議事の進行は委員長・副委員長選考まで事務局で行い、その後の進行は委員長にお願いする。

(理事あいさつ)

皆さん、こんばんは。総務部で地域担当の理事をしております川南です。

本日は、平成28年度の第1回の市民協働推進委員会を開催させて頂きましたところ、委員の皆様には大変ご多用のところ、ご出席を賜り誠にありがとうございます。日頃から、皆様方には、東近江のまちづくりに、それぞれのお立場から格別のお力添えを賜っておりますことを厚くお礼を申し上げます。

また、このたびは、市民の皆さんと行政が共に手を携えて豊かな地域社会を創っていかうと、市民協働推進委員のご就任をお願いしましたところ、快くお受けいただき、また、公募委員の皆様には、積極的なご参加をいただきまして、重ねてお礼を申し上げます。

さて、本市では、市民や市が互いの特性を生かしながら協力し、地域の課題解決を図る「市民と行政の協働」を基本的な考え方として、まちづくりを進めています。平成26年度には「東近江市協働のまちづくり条例」及び「東近江市市民協働推進計画」を市民参加で作成し、この計画に基づき「協働」の取り組みを進めています。簡単に「協働」と言いましても、市民と行政、立場の異なる者同士が共通の問題意識を持って、共に行動しようとする事は、容易なことではありませんが、東近江には、昔から「協働」の下地があったと思っています。

湖東平野に数多くあります農村集落では、農作業や道普請、川普請、祭礼行事など、自分たちのことは自分たちですという惣村自治の歴史がありました。

また、今日の企業の社会貢献活動、所謂CSRの先駆けとなった近江商人の「三方よし」

の精神は、「協働」を実践するための精神的支柱とも言えます。そして今日では、自治会、まちづくり協議会や、NPO、ボランティアグループ等、様々な形の市民活動が、地域社会に息づくようになりつつあります。

このような中で、協働によるまちづくりの指針として作成した「協働のまちづくり条例」や「市民協働推進計画」を実効性あるものにし、総合的・計画的に推進するための仕組みや制度などについて皆さんでご検討いただきたいと思います。

継続で委員をしていただいている方もおられますが、昨年度までの市民協働推進委員会では「わがまち協働大賞」や「地域担当職員制度」など「市民協働推進計画」に掲げられている施策についてご議論いただき、そのご議論を踏まえて制度化や実施につながった取り組みもごございます。

今後は、これらの取り組みをさらに充実したものにすることのご検討や、新たに取り組むべきことについてもご意見を頂戴できればと思います。併せまして、市民参加や協働によるまちづくりがより推進されるために共に活動したり、情報の提供や提案の方も頂けたらと思います。

今後2年間、東近江のまちづくりについて皆様方の豊かなご経験とご見識を賜りたいと存じますので、どうか忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げまして、ごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 【委員それぞれによる自己紹介】

\*本日出席の委員10名(太田さんは遅刻により後に自己紹介)がそれぞれ自己紹介をする。  
その後、事務局5名も自己紹介。(名簿参照)

### 【正・副委員長の選出】

委員長・副委員長の選出について、東近江市協働のまちづく条例施行規則第9条の規定により選出される。委員長に龍谷大学の深尾昌峰先生、副委員長に手当療法士の築山清美さんが選出される。(全員賛成)

(委員長あいさつ・深尾委員長)

「協働」という言葉は今、日本中の行政がパートナーシップという文脈で使っていますが、その中でも東近江市は一步前に出た意味合いで「協働」が位置付いてきているなど感じています。この委員会の中でいろんなアイデアを出していただき、それを地域の中に根付かせるために、委員自らが汗をかき、実験をし、試行錯誤をするということを繰り返してきました。

筋書きのある委員会が多い中で、形式的な議論は少なく、委員みんなで創っていくという感じですので、今回から委員になられた皆さんも、負担をかけることもあるかもしれませんが、いろんな人たちと関わりながら、いいまちを創っていくことを基軸に活発な議論をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(副委員長あいさつ・築山副委員長)

2年前に来たときは緊張していて、分からない言葉が飛び交っていて動いている列車に乗るような感じでした。ラウンドテーブルという言葉も知らなくて、質問したことを今でも覚えています。初めて来られた方は緊張されているかもしれませんが、どうぞ一緒に創っていきましょう。また、目が見えていないので、皆さん発言されるときは、まず名前を言ってから発言してもらえようをお願いします。言葉から覚えていきますので、ご協力お願いします。

(委員長)

ありがとうございます。ぜひ築山さんに覚えてもらえるくらい積極的に意見を出していきましょう。では、これから今日の議事に入っていきます。

まず、今年度この委員会が何をし、どこに向かっていくのかということ、昨年の議論も含めて今年度の概要及び計画について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

#### **【東近江市市民協働推進委員会の概要】**

- \*委員会設置の趣旨、委員会の役割、任期等（p 1：資料1）、具体的な活動内容、平成26～27年度の内容や様子（p 2：資料2）について資料に基づき説明。
- \*原則、委員会は公開。そして、毎回会議録を作成し（発言者の名前はふせて）、会議録をホームページに掲載することを説明。
- \*年度末には推進計画の進捗管理の検証をすることを依頼。
- \*協働大賞やラウンドテーブルについて、これまでの議論内容と概要説明。

(委員長)

これまでの経緯と今後どのようなことを考えていく必要があるかということ振り返っていただきましたが、特に今年から委員をされている方からでも、なにか質問などありませんか。

(委員)

先ほど副委員長からもありましたが、ラウンドテーブルというのは具体的にどういったものでしょうか。

(委員長)

協働ラウンドテーブル運営委員の方から、どなたでも良いので説明いただけますか。

(委員)

協働ラウンドテーブルとは、「ラウンドテーブル」というのが少し難しい言葉ですが、要は課題を解決するために多業種の方に集まっていただいて、その課題解決をするために話し合いの場を設けるということ「ラウンドテーブル」と呼んでいます。

(委員長)

今までだと行政がまちの課題を一番よく知っているという風に社会が設定してきて、市民の困りごとは行政が知って課題を解決するというのが大きな流れだったのですが、本当にそうなのかということですね。

課題を一番よく知っているのは生活をしている市民、地域で生きている人だろうというこ

とです。ただそういった声なき声はなかなか出せないし、それを行政が分かるまでの間にはそれなりに時間がかかってしまう。そういったものを気軽に出し合えたり、地域の課題、誰かが困っていることが出された時に、みんなでそれをどうやったら解決できるか、どうやったらそういった問題がなくなるかということを、みんなで知恵をしぼるような場を作るというのがラウンドテーブルのイメージです。

いろんな立場を超えた人たちが円卓を囲んで、課題について話し合う。誰かの責任というよりもまちを良くしたいという人たちが、まずはそういった場を作ろうということから始まり、この委員の皆さんを中心に運営委員が出来て、その試みが始まっているということです。

(委員)

では、この委員の皆さんはどこかで運営委員会に関わっているのですか。

(委員長)

そうですね。協働をしていくには大切だということで、ラウンドテーブルの仕組みをつくらうとこの委員会で決めて、実際にやろうとしたときに、じゃあこのメンバーでやってみようという意見が出ました。外出しで運営委員会を作るときには、手上げ方式で皆さんがやっていたらいいという形です。

他にはいかがですか。今のようなことでも、私たちが分かっているつもりになっていることもいっぱいありますので、どんどんいただければ有り難いと思っています。

では、引き続き協働大賞について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

#### 【年間スケジュールと検討事項について】

\*年間スケジュールと検討事項（p 7：資料3）について説明。

\*東近江市市民協働推進計画の施策や進捗管理について（資料4）説明。

\*今年度重点的に議論していくテーマとして、未検討になっている「1 若い世代のまちづくりへの参加を促進するには」

(委員長)

具体的に今年度やらなければいけないことをスケジュールに落とし込んでいただいて、重点的にやっていきたいのが、若い世代の人たちとまちづくりの未来に向かった議論をどうしていくかということです。この中に10代がない、20代もない・・・という、どうすれば突破口を開けていけるかといったことも、ぜひ皆さん方と一緒に考えたいですし、当事者である若い世代がこの委員会に来て一緒に議論するといったこともやりたいと思っています。若い世代とこういった議論をつなげていくための方策や、私たちが変わらなければいけないこともあるでしょうし、どうすればもっと若い世代の社会性といったものがまちにつながっていくのか、今の若い世代と関わっていても社会性が高いというか、社会貢献力が高いんですね。でもこれが地域につながられていないということが今の大きな課題だと思います。

新しい取り組みが始まりますが、協働施策の進捗管理もこの委員会の大きな仕事ですので、本当にどうやって測っていくのか、改善されなければいけないこと、実施されていればそれ

でいいのかということなど、「若い世代」、「評価の仕方」という観点を中心に議論していければと思います。ここまでのところで、こういった視点があるとかご意見ありますでしょうか。

(委員)

この会議に10代や20代を呼ぶというのは、大人が多くてどうかなと思うので、どちらかというとながらが学校に行ってグループワークをするというはどうでしょうか。

(委員長)

広く聞くという面では良いですね。ぜひ実現したいですね。他にはどうですか。今みたいな提案でも結構です。同時に、こういったオフィシャルな場に若い世代が出てきてもらうというのも、緊張したり良い経験になるかもしれませんね。

<太田さん 自己紹介>

(委員長)

もう少しここはこうした方が良いただろうなど、他はいかがですか。特に3回目、4回目あたりでいろいろな議論が出来ると思います。スケジュールにはわがまち協働大賞について書いていますが、全部時間をとる必要もないので、何か別の要素やアイデアも入れていったら良いと思います。

また後で話し合ったり議論する時間をとりますので、最後まで説明をお願いします。

(事務局)

#### 【『共に考え、共に創る わがまち協働大賞』について】

\*わがまち協働大賞について（p8：資料5）説明。

\*選考方法（p11：資料6）と1次選考シート（資料7）について昨年度の状況を説明。また、今年度どのようにするかをこの会議で決めたいことを伝える。

（選考シートのコメント欄は特筆すべきことのみとし、点数のみすべての事例について採点することを提案。また、出来ればヒアリングの実施もしたいことを依頼。）

(委員長)

ありがとうございます。基本は昨年度作ったフレームを踏襲しながら、より良いものにしていきたいと思っています。もうすでに募集が始まっているということですので、声かけをご協力いただきたいのと、今日決めたいのは、審査方法のところでは前回はすべての団体に対してヒアリングをした訳ですが、そこをどうするか昨年行っていただいた人を中心に経験をシェアしながらあり方を決めていきたいと思っています。昨年は手分けをして1人2つずつ行ってもらいましたが、ヒアリングを通して分かったこともあったと伺ってますし、負担ももちろんあったと思いますが、いかがですか。

(委員)

私は行ってすごく楽しかったです。その方の思いを聞くことが出来て、書類に書かれてい

ること以上の熱意を感じることが出来たので、事業の背景がダイレクトに伝わってきたという点でヒアリングをして良かったと思います。事業へのコメントについても、点数は比較をしながらつけるだけの作業になってしまうのですが、点数では測れないものをコメントで表現できるので、負担とは思っていないくてむしろ書かせてもらえて良かったです。

(委員長)

ありがとうございます。他の方はいかがですか。

(委員)

私もヒアリングは有効だと思います。ただ懸念しているのが、自分の思いが入り込んでしまって、客観性や平等性といったバランスが取れなくなるので、審査の方法として良いかどうかは分からないですね。負担がまたかかるような意見ですが、ヒアリングをした人が発表をすればみんなでシェアできるのかなと思います。個人的な評価がヒアリングによって上がってしまうというか、応援団になってしまう感じを受けました。その辺のやり方が気になります。

(委員長)

そうですね。確かに去年は、思い入れが出てくるというか情がわいてくるというか、それはそれで良かったなと思っていますが、おっしゃる意見もあるので、みんなで共有できる時間を作るといったような工夫が必要かもしれませんね。

(委員)

ヒアリングに行って2点良いところがありました。1点は、詳細なことが言葉で返ってくるということです。もう1点は人と接しながらどういったことを聞いたら良いのか、どういう風に受け止めたら良いのかといった、対面や雰囲気をつかむコツがヒアリングという経験によって自分自身の勉強になりました。大変ですがヒアリングはしていただいて、コメントは簡略していくという方向で進めていけると良いかなと思います。

(委員長)

そうですね。去年もエントリーシートは出来るだけ簡単にしたいねという議論がありました。応募しやすくしようということで作って、結果としてたくさんの応募をいただいたわけですが、簡易にすれば紙だけではなかなか分からないこともあって、そういう意味でもヒアリングは有効に機能したというご意見もありました。

(委員)

私も2ヶ所ヒアリングに行ったらファンになったので、自分としては負担という感じはなかったですし、行って良かったと思っています。日程調整等、事務局の負担があると思いますが、ぜひ今年も直接ヒアリングに行きたいです。

(委員長)

コメントをまとめたり、日程調整をするという点で事務局に負担をかけてはいますが、どうでしょうか。

(委員)

私はヒアリングに行ってもませんが(今年度からの委員)、非常に良いと思います。ヒアリングで応援や代弁者になってもいいですし、得るものが多いと思います。皆さんものさしが違うので、熱気を伝えていただければ良いと思います。

(委員)

去年は67の事例が出ていて、すべてにコメントを書いたのが多かったんですね。エントリーシートは採点のみでコメントは控えて、1次選考で残ったものに対してヒアリングと、ヒアリングに行った人がその事例に対してコメントを書くということにすれば、事務局の作業も減るのではないのでしょうか。

(委員長)

何件来るかにもよりますよね。では、第1次選考の際のコメントについては、応募が終わった段階で決めさせてもらって良いのでしょうか。もしも件数が多ければ私が総括コメントのような形をとらせていただいたり、皆さんの審査結果をを集約するというくらいにすることも含めて、締切が終わった段階で皆さんに相談させていただきたいと思います。

今のご議論でヒアリングに関しては良い取り組みだと思いますので、たぶん今年も1人2団体くらい行っていただくという形で進めさせていただくということによろしいのでしょうか。

<全員承認>

では、どちらにしても応募がなければ始まらないのでお声かけをお願いしたいと思います。また、自分自身非常に良かったと思うのが協賛の副賞100万円相当というものです。話に聞いたところによると、あのクーポンを持って行かれた団体さんが、お店から「すてきなことをやっていますね」と言われてコミュニケーションになったり、コンセプトはまち全体で応援するということが、この100万円相当という副賞の中にはあるので、もう少し増やしていったり、その券を持って行くことでコミュニケーションや支援者を増やすといったことになれば非常に面白いなと思いますし、私自身コンサルテーションの副賞をもらってもらった団体さんから依頼を受けて行ったときに、非常に喜んでいただいて自分も楽しくやらせていただきました。

そういうことも含めて、副賞の方も募集中ですのでお声かけをしていただきたいと思います。何でも良いです。喫茶店でコーヒー1杯でも良いですし、それでコミュニケーションになったりまち全体で応援しているということになりますので。

(事務局)

この(Corabook)20ページに去年惜しくも大賞を逃したというか、いろんな賞がもらえなかった方がおられるんですが、再チャレンジというのは可能ですよね。

(委員長)

もちろん。

(事務局)

去年出してもらった人に送れていないところはこれから送ります。

(委員長)

いろんな団体さんにとってもアピールできるポイントが変わっていくとすごく良いですし、ぜひ何回でも出していただきたいですね。次回の委員会というと8月ですので、第1次選考になって締切を超えてしまいますので、ぜひ応募の喚起の方をよろしくをお願いしたいと思います。

(委員・まちづくりネット森下さん)

応募の時期からは少しずれてしまったんですが、去年の協働大賞について能登川博物館さ

んと協働という形で、博物館が7月からからくり人形とか展示をされるんですけども、その中に協働大賞の事例と一緒に展示をしていただきます。もしお時間があれば、皆さん見に行っていただきたいと思います。また、大賞とっていただいた方とかこれからお願いしようと思っていたのですが、各団体さんが作っておられる成果物、名刺入れとかファイルとか、そういうのも一緒に展示させてもらおうと思っていますので、よろしくお願いします。

(委員長)

それでは協働大賞についてはここまでにさせていただきたいと思います。

ここからは少し協働のこの委員会のざっくりした部分を皆さん方と意見交換したいなと思っています。とはいえ時間があまりないのですが、私の方からこの委員会がどういうところを目指していくのかということをお話させていただきたいと思います。

### 【東近江市における協働とは？～これまでの取り組みをふまえて、今後めざすこと～】

先ほどもありましたが、全国的に見るとこの「協働」というのは結構行政がうまく使ってる協働がメインストリームです。それは何かというと、行政がお金がなくなっているからアウトソーシング先として、要は外部委託先として市民を安く使う、言い方は悪いですが、安上がりな行政を作るために、協働という名の下に市民を使うということですね。これから何が起こるかということ、行政事業を市民が担うということしか起こらないんです。要は、ここを任せますというのがほとんどです。行政がやっていた講演会とかお祭りとかを、たとえばまち協さんに任せますとか、コミセンに任せますということだけをやっている自治体がほとんどなんです。それを協働と呼ぼうと。で、そのためのルールを作るとか、対等にやれるためにどういう仕組みが必要とか、どういう委託契約書が必要とかみたいな議論がされて、ほぼそれで終始してるんですね。

ただ、東近江のこれまで議論してきたことは実はそうではなくて、行政事業を市民が担うということも当然あっていいんです。それを否定するわけじゃなくて、それだけではなくて、実は地域の何というか、極論を言うと自治だと思っただけなんです。まちをどういう風にみんなが経営していくか、運営していくかというときに、行政は行政の役割があって、いつも僕が言うのは、民にしか出来ないとか、生活者、市民にしか出来ない領域も実はいっぱいあって、おととしもこの委員会が始まったときにお話をしましたが、例えば今、引きこもりといえど皆さん社会課題として認識が出来ます。認知症もそうです。認知症といえど、私たちの社会は認知症の相談窓口を作りましょうと言っても誰も反対しませんよね。引きこもりのための相談窓口を税金で作りますと言っても誰も反対しない。だけど、30年前引きこもりの人たちっていうのは怠け者と言われていた訳ですね。社会に引きこもりという概念がなかった。その時にじゃあ怠け者のために税金を使って相談窓口を作りましょうというのと、それは大反対な訳ですね。なんで怠けているやつのために税金を使わなければいけないんだと。実は私たちの社会の問題って全部そうなんです。DVもそうです。DVは昔は夫婦げんかと言われていて、夫婦げんかのために税金を使うとは何事か。人権の問題もそうですよね。例えば最近だと LGBT とか性同一性障害とかいろんな問題が、もうその人の責任ではなくてそれは病気であつたりとか、もともとの脳の問題だとか分かってきたときに社会は初めて変わっていくということですね。で、その時初めて税金が使えるようになるんですけど、それ



までのこと、もっと言えば地域で起こってるちょっとしたことは、行政が認識したりとか税金が使えるとかっていうまでに、結構時間がかかったりするわけですね。そういうものは実は生活者である市民の方がビビッとくるし、kikitoさんの事例のように商売をされてる方々の感覚が活きる局面、たぶんkikitoさんのような展開はなかなか行政では難しい訳ですよ。商売としてその課題解決をそれとひっつけながら、地域の木材という資産、あるものを活かしましょうという話はなかなか行政はそういう発想にはなれないんですよ。それは公平性とか平等性を原則としなきゃいけない行政というのは、そういうものにそもそも不向きなんですよ。で、私たちの社会はどちらかというとそういうものを行政に求めてしまう。行政何やってんだって言って行政を攻撃して、何かすべての問題が解決したかのように思うんですけど、実は行政が出来ることと出来ないこと、得意なことと不得意なことっていうのがあって、そういうことを私たちの社会は、すべて行政がやらないからいろんな問題が起こるんだ、児童虐待の問題もそうですよね。児童相談所を責めて終わるといって、メディアもそうですよね。なんで相談来ていたのにあの子の対応しなかったんだって。現実的には児童相談所は山のような件数を抱えていて、レアケースとしてちょっとこぼれてしまったケースをとらえて、おまえら税金泥棒だって、社会が言っちゃうわけですよ。

本来はそうじゃないはずなんです。そういう意味でいくと、東近江のこの計画づくりからずっと関わらせていただいてきて感じるのは、本当にもうみんなでまちを良くしたいとか、元気にしたいとか、困っている人を助けたいっていうときに、行政は行政の役割があるということが根底にある議論が、すでに東近江では出来ていて、いろんなことをやってる人たちがもうプレイヤーとしていて、そういうものがもっともっと活発になる仕組みを考えるっていうところに、この東近江の協働というのは立ててるなという風に思っています。

ですので、単に行政の事業を肩代わりしてやりましょうということだけではなくて、もっと本質的なパートナーシップを組みながら、民は民の中でもっと一緒にいろんなことをやるよ。ただ、行政と民が組めるともってこういうことも出来るよね、民と民が組めばこんなことも出来るよねとか、まち協と例えばkikitoさんみたいな団体が組めばこういうことが出来るよねとか、いろんなことの組み合わせが協働という名の下に起こる素地はあるなという風に思っています。そのキーワードはたぶん自治なんだろうと思っています。そういう意味では、僕自身よく言うのが総力戦だと。これからは行政も右肩上がりの時代のようにお金がジャブジャブある訳ではありません。一方で、私たちの社会はいろんな課題が非常に複雑に入り組んできているという文脈の中でいくと、みんなのための仕事とか、まちのためになることとか、高齢化なんかを見据えていくと、高齢化時代を安心して生活をして安心して死んでいくには、行政ちゃんとやれよというだけじゃ絶対そんなコミュニティは作れない訳です。

僕も今、週末各週くらいで熊本にずっと行っていますが、避難所を見たら一発ですよ。そういうことが出来ているコミュニティと出来てないコミュニティでいくと、行政の悪口ばかり言っている避難所では何も進まないんです。そうじゃなくてみんなできようぜとか、トイレのルールしようぜとか、こういう風に寝ようぜって決めているところだと、みんなが安心して、みんなで助け合おうという空気があるのと、行政に対してけんか腰のことばっかり言っているところには当然支援者も少ないですし、物資も少ないしということが明確に出てきて、なによりもそこにいる人たちの満足度とか、顔の明るさとかっていうものも全

然違うんですね。要は、そういう風に自分たちのこととしてとらえられるような人たちとか、みんなが楽しんでまちづくりをやるとか、それが結果として住みよいまちになるとか、安心して生活していけるとか、安心して老いていけるとか、そういう可能性がどどんいんな人たちが実感できるというのが、たぶん協働のプロセスなんだろうと思っています。

そういう意味では、行政のアウトソーシングとしての協働も東近江はとうの昔に卒業しているというか、そういうフレーズがもしかしたら無かったかもしれませんが、そういう文脈で行くと、この67件の応募があったということ自体が、そういうことを証明していますし、この委員会自体もそういう文脈で協働というものをとらえて議論してきたなあとと思っています。

ですので、先ほど申し上げたラウンドテーブルみたいなもの、ある意味ではこの委員会からすると余計なものなんです。別にそれをこのメンバーでやる必要もないんですが、ただ、今みたいなコンセプトがたぶん皆さん方の中にストンと落ちているので、じゃあそういう仕組みをつくったらもっといろいろな声を拾えるよね、困っている声なき声なんだけどそれを拾って同じようなことで困ってる人がいるはずだ、こういうのをどうやって広げていくかということに、皆さん方が興味を持っていただいて、それを行政もなるほどと、そういう問題を逆に言えば行政がどう引き取るか、今までだと0か100かといった引き取り方しかなかったために逃げなきゃいけなかったわけです。引き取れないと思ったら、いやあもう…となるけど、今のラウンドテーブルみたいなものでいくと、行政的な引き取り方、俺たちはこの部分をやるかもしれないな、全部は無理だけど今の行政でここなら出来るかもしれないなみたいなことを行政の人たちも考えていただくし、じゃあ残りの部分、この部分は企業の人たちがもしかしたら出来るかもしれないとか、そういう風にみんなで課題を克服したりとか、良いまちを作っていくという文脈で議論が出来るということが東近江の最大の良さであり強みだと思います。

僕も全国でいろいろなこういう仕事をさせていただいてますが、こんなまちありません。現実的には本当にありません。本当に希少なまちだと思います。それが強みなんですよ。ですからそういう意味では合併から10年経って、まち協さんもいろいろな形で頑張っておられるし、コミセンなんかでも非常に良い活動をされはじめていますし、そういうものをまちとしてもう一回いろいろな人たちがそういうものに参画が出来るような仕組みが、PRや仕組みづくりですね、そういうものがこの推進委員会でもっともっと議論が出来ればと思ってるし、私たちが生み出したラウンドテーブルというものがもっともっと定着していけばいろんなことが起こっていくと思います。あとは今、派生して出来てきている流れでいうと市民ファンドを作らなきゃいけないということをこの計画のところで言っていたものが、実は三方よし基金というものを作ろうという検討会議が進んでいますので、そういうものが見えてきたときに、もっともっとまちの可能性とかがいろいろな人たちが膨らませられるとか、諦めなくていいというか、東近江には東近江の生き方があるというか、暮らし方があるというか、なんかそういうものが少し見えると非常に良いなと思いますので、そういう文脈でこの協働というものをとらえてもっとHAPPYなまちにしようぜ、もっと可能性あるぜということ、是非皆さん方と一緒に議論したいなと個人的には思っています。

そういう観点では是非皆さん方も協働をとらえていただきたいなと思いますので、そういう

ところで是非皆さんと一緒に議論したいと思います。今後そういう意味ではラウンドテーブルみたいなものを皆さん方もどんどん議論していただいて、皆さん自身で勉強したり、そういうところから見えてきていることなんか是非お話ししていただきたいですし、前段のところでも少しありましたが、皆さん方からもご意見を頂戴したい、この委員会でもっとこういうことを議論した方が良いとか、こういうテーマもあるんじゃないとか、その辺のお気づきのところを是非お出しをしていただいて、今日は意見交換というところでさせていただきたいという風に思っています。

まあレクチャーらしいレクチャーではありませんでしたけど、そういう風に東近江の協働というのはたぶん全国的にみても超イケてるというか、昨日覚えた言葉があつて、皆さん方ご存じですか。学生たちに聞いたんですが、「ありよりのあり」って最近の若い子たち言うんですよ。僕も何それってボクシングの選手かなんかかかって聞いたら「おっさん」って言われましたけど、「ありよりのあり」って、有る無いの「あり」の中の「あり」だから超あるっていうんで訳わかんないです。ないよりのありもあるのかって聞いたら、そんな風には言わないって、もうそういう言い方するからおじさんだつて。僕の息子に聞いたら知ってましたね。中2の。よう分からんなと思いましたが、まあそういう意味では「ありよりのあり」なんです。もう突き抜けてあるっていうね。

そういう意味でいくと東近江の協働モデルというのが、なんか協働と言わずに表現できれば本物になっていくなと思います。協働と一般的に言われているものを超えて、東近江モデルっぽいものの言葉ができて、なんか今の自治みたいな、惣村自治みたいなものを今日的に具現化して見せられたら、もうそれでたぶん東近江が移住化政策しなくても住みよいまちだつていう風になっていくという風に思います。なのでぜひそういう観点でご意見をいただければと思います。

どこからの観点からでも良いです。なにか皆さん方でビビッとくるものがあつたりだとか、これだけは喋っておきたいというのがあれば、ご自由に、ここからはもうフリーディスカッションでいきたいと思います。いかがでしょうか。

(委員)

あまりまとまらないままで喋るのでほわっとしてるんですけど、行政の人が関わった協働事業というもの、先ほど言われたみたいに一部批判というふうに使っているところもあると思うんですけど、わがまち協働大賞の審査をしていてちょっと思っていたことが、行政の人も関わってよりよい仕組みになっている協働事業のものって、それこそ素晴らしいと思っているんです。民と民の連携もすごいものがあるんですけど、なおかつ行政が入って継続的にやっているというのがすごいと思うんです。行政が入っているから当然できているやんっていう評価の気配があるのが、若干気になっていて、行政がきちんと入ってうまくいっているものっていうのも同じ土俵には完全にはならないかもしれませんが、同じような目線できちんと褒めるといふか、褒める目線を持っていくというのも大事じゃないかなと思います。なので、行政の中の課題や持っている課題って、もしかしたら市民側になかなか届いていないものももっとあるかもしれませんので、そういうものが安心して出して来られるように、受けていく体制みtainなものとか、評価していく体制みtainなものを作っていくべきかなという風には思っています。その辺は研修なり何なりで連携とっていきようなつながっていく

といのかなと、協働の取組みとしては双方向性なんじゃないかなと。

(委員長)

そうですね、去年もそういう議論ありましたよね。行政間協働ももうちょっと進めた方が市民的にも HAPPY だよねという、課と課が縦を超えて、横とつながって地域のことを考えたりしたり、行政と行政の協働ってまあ変なんですけど、そういうものを促すことによって、実はいろんなものが動いたりするっていうことを去年議論しました。確かにね、ありがとうございます。

(委員)

地域担当職員制度というものがせっかくスタートしていますので、先ほどから先生のお話を聞きながら思っていたのですが、困りごとを、できれば東近江市の自治会の単位の困りごとを1つずつ提案をしていただいて、こういったラウンドテーブルとか地域担当職員さんと一緒に、いろんな解決していく方法をひとつもっていくと良いなと思いますね。それが無理でしたら、まち協単位でそういったことをやっても良いのかなと私は思います。せっかくこの地域担当職員制度ができたのですし、これをみても副支所長・支所職員・公募の方ですから、だいたいこういう方については、これから今後、今までよく地域で言われるんですが、行政のOBの方がなかなか地域のことに参加するのが少なくなっているという話をよく聞きます。私自身もそういうことを聞きますので、こういった部分で副支所長・支所職員・公募により選ばれた方ですから、こういう方をフル活用してですね、こういう推進委員とかまち協さんとかいろんな団体さんと、そういう困りごとを障害になるものを紹介していただいて、そういうものを検討すると、私はもっと良くなるんじゃないかなと思いますね。

(委員長)

非常に重要な点ですよ。だからさっきの拡大委員会なんかのところ、そういうしつらえしても良いかもしれませんね。地域担当職員の方にも少し来てもらったりなんかして、今みたいな観点でディスカッションして、そういう困ってる課題みたいなものを少し出して、解決策をみんなで議論するみたいなことがあっても良いかもしれないですね。今何人の方が手を上げてくださったんですか。

(事務局)

68人です。

(委員長)

68人。結構やらせなしでしょ。すごい。

(事務局)

全然なしです。まあ地域で推薦された人はいますけど。

(委員長)

だから逆にそういう風な、壊れてるわけですよ。ドラフト制度みたいな。そういう意味でそういう職員がこれだけいるっていうのが、なんかまちにとってはとっても HAPPY なことですよ。だからそういう意味では、そういう人たちがやる気を持ってやれるとか、誇りに思ってるっていう文脈でいくと、そういうコミュニケーションをこの場でも持てると、そういう人たちとつながっていったりだとか、そういう人たちと一緒に研修をやるとか、そういうことも是非、今のご意見からは非常に重要だと思いますね。非常に目玉の政策でもあ

りますし、我々の計画の中にも位置付いて市長もかなり気に入った展開をしていただいている制度ですね。そういった意味でも少しコミュニケーション取っていくということも大事だと思いますね。地域担当職員制度で何か期待ありますか。

(委員)

まとめられないんですけどね、事務局をしますと、やっぱり行政って特殊な言葉なんですよね。なかなか一般のコミュニティの中に、自治会の中に入ると全然違うでしょ。そこでつなげるという役割は大きいですね。僕はずっと事務をしていたので、そういう市役所の人が市民と一緒にね、もう1人相棒がいないんですよ。そういう人が来ていただけると本当に心強いですね。決して使うとかいう意味ではないですよ。

(委員長)

そうですね。翻訳のね、両方のことを知ってる人って結構世の中にいないんですよ。だからそういう意味ではお互いが離れすぎてるっていうのも問題ですけど、それはそれとして認識をしているから、逆にいえば今つなげる人っていうのがね、このメンバーもそうだと思いますけど、そういう意味では今の地域担当職員みたいな人が翻訳というか、逆に言えば一緒にという文脈でも非常に意味があるかもしれませんね。

(委員)

私はお話を聞いていて、まだずっと外国語を聞いているような、ぐるぐるぐるっと回って全然自分の中でまだ落としどころがないんですけど、ここの委員会が目指してるところはなんとなく見えてきましたので、どうなんでしょうね。本当に市民が良いまちにしていこうために、住みよい、結局みんなが居心地が良いまちをみんなで作り上げていこうということだと思うんですけど、私たちもここに住んでて身近な自治会なんかを見ていますと、今は自治会でさえ大変困ってますよね。そういう声っていうのがあがってくるシステムがここにはあるのかなとか思っていて、各代表の方みても皆さんそれぞれいろんなところで活躍されている方が多いように思われますけれど、自治会のようなそういう身近な声が上がってくる道筋があるのかなと思ったりして。身近なこと、身近な幸せっていうのはまず、身近な自治っていうのがすごく大事に思えるので、そういうことも今後の課題かなって思います。

(委員長)

大事なところだと思います。だから行政の吸い上げ方とは別で、何か市民からこういうところで、例えばラウンドテーブルなんかの議論の地域版みたいなことを、まち協さんと一緒にやれないかとか、今みたいなことを是非、本当におっしゃるように課題なんですよ。だからそういうものがどうやったら仕組みとして動かせるかということと一緒に考えたい、今の僕の話もそこに尽きますので、是非一緒に考えていきましょう。

(委員)

それは私もお願いします。私もコミュニティの中から来ているので、自治会なんですね。自治会の事務局をしていますので、そこが基礎的なところですからね。その課題は非常に大事だと思います。

(委員長)

そうですね。そういうものをじゃあ自治会の課題ということから、もうちょっとまち全体の課題にどうやったらみんなで議論できていくか、他に困っている人たちもいるだろうとか、

そういう人たちがつながりながら課題の解決策を考えていくということを、なんか今だとお前の自治会だけの問題だろうみたいになっちゃうとなかなか全体が動かないんですよ。だから逆にいえばそういうものの共通性みたいなものを吸い出していけるっていうか、そういう風に扱わざるを得ないというか、今の行政の統治機構自体もそうなんですけど、なんか特定のこのポイントだとそういう扱いになっちゃうわけですよ。本当はそうじゃないわけですよ。そういう課題っていうのはいろんなところに背景情報としてつながっているわけで、高齢化の問題がそういう風なものになっているとか、なかなか若い担い手がないとかっていうことが、いろんなものの背景が同じだということですね。なんかそういうものを共通の吸い出して、はき出していける場がどういう場があるのかっていうのを是非議論をやっていただければと思います。僕らよりもその辺はお2人の方が感じておられると思いますので、そういうのを議論していただければと思います。

(事務局)

今日でも市長のあいさつにあったんですけど、地域担当職員にですね、君たちはイベントサポーターでもなければ、ただのメッセンジャーでもないっていうことを市長がおっしゃられたんですけど、旧の八日市市をみても地域でコミセンに集まっておられる団体の皆さんは、何か自分たちの団体の次の活動のための段取りを決めるのが主で、今までやってきた活動はこれでいいのかっていう話があるように思っていて、闇雲に皆さんの課題を挙げてくださいみたいなラウンドテーブルをするのはいかがなものかなと思うんですけど、その辺地域担当職員のスキルを上げていながら、誰が来ても良いような会議ですね、例えば平田なら平田地区のことについて何でも良いから喋りましょうというような場をきちっとファシリテートできるようになったらやっていきたいなというふうに思っています。そういったものが地域ではできてないと思うんですけど、何かのための集まりとか、何かのための会議っていうのはたくさんあるんですけども。

(委員長)

もうちょっと課題解決志向であったり、未来志向であったりという文脈で、いろんな市民を寄せ集められるそういう仕組みとか、そういう手法はいろんなところで開発されているんですね、そういう策におぼれるというか手法におぼれるんじゃないくて、その地域地域を見ながら、この今の地域のやり方がいいなとか、そんなんをある意味で地域担当職員の皆さん方と一緒に考える場があるっていうのも良いのかなっていう風に思いますね。便利使いになると地域担当職員は良くないですね。

(委員)

全然毛色の違う話をしちゃうと思うんですけど、まち協って10年くらい前でしたっけ、立ち上がったの。その頃ちょこっと関わったときに、非常に今いろんな活動をされてるんですけども、なかなか運営が大変やなっていうのが当初の印象であったんですね。その大きな理由が、僕なりの感覚では資金繰りというか財源確保が非常に難しい中でたぶんスタートをきって、行政から交付金をもらって運営されているんですけども、それも限界が有るんじゃないの。自己資金なりどこかからの支援なりをどう創り出すかを活動と同時に考えていかないとどこかで息切れするんじゃないのというので、すぐ僕はまち協を抜けました。

という経緯の中でここに kikito さんがおられるんですけども、ソーシャルソリューション

という言葉がありますよね。あれはまあ特定の企業になってくるのかもしれませんが、そういう例えば、企業を巻き込むのか企業に巻き込まれるのかその辺ちょっと微妙なんです、そういう就労関係も含めて、いわゆる経済活動全体を網羅した仕組みづくりを各コミュニティなりで小さくても良いのでできていく、そういうシステム作り、体制づくりみたいなものをこういう中で考えていくっていうのは、将来的にみてすごく必要なと。たまたま一昨日ラウンドテーブルがビジネスモデルで、出資という言葉が出ていたんですが出資っていうのが果たして適切な表現なのかどうか、他の制約もかかってくるので難しいかと思うんですが、例えばそれは市民なりの資金源でありますけども、このラウンドテーブルの中で、協賛していただきたいいわゆるクーポン券、そういう風なそれも1つになってくるかなと思うんですね。いかに企業活動している団体が市民活動している団体に関わりを持っていただけるかっていう、その触診を伸ばしていくのもこのグループでやっていく必要性がちょっとあるのではないかっていうのも感じるんですけども。

(委員長)

そういう意味では、ソーシャルソリューション、そうですね、ソリューション化させていくというか、仕組みに変えていくっていうところを、持続可能な経済循環というか持続性を担保したソリューションにどう変えていけるかっていうことは非常に重要な観点ですし、今最後におっしゃった資金の投資ですね、僕自身はそういう研究をしています。社会的投資と呼ばれるような投資手法がかなり日本でももうすぐメジャーになっていく。その先がけを今、補助金をみんなの投資で支えようというような仕組みができればなあみたいな、皆さんにもお願いがいくと思いますが、そういう仕組みなんかも今動き始めています。

お金がないわけじゃないんですね、地域の中には実はいっぱいあるお金がいっぱいあって、それが活かされていないんですね。そういうのもソリューションとして地域の中でデザインができれば実は活かせる場所や活かせる人や対象があるってことで考えると、今までの常識を少し横に置いて、そういう投資手法みたいなものやお金の流れ方をデザインするっていうことをね、なにか新たな協働モデルを作るといところで非常に大事だと思います。そういうことも是非考えていきたいですね。なかなか大事なポイントだと思います。

今度東近江版S I Bというのがありまして、1口2万円で出資をして、コミュニティビジネスのスタートアップを支えようというのが7月から始まって、これは本来補助金で交付して終わっていたのを、まずはそれをみんなを出して、その補助金の目的が達成できたら市が出資した人たちに元本を戻すっていう、成果連動型補助金ですね。補助金ってもう無駄使われて終わるっていうのが常なので、そうじゃなくって成果を出したらちゃんと行政が補助する。その前までは市民がみんなを出してあってその事業を支えるっていうスキームを日本ではじめて東近江がやり始めるんです。

そんなのも実はまずみんなのお金で支えるっていうので、みんな真剣なんですよね。だからきつと精度が上がっていく。そういったようなことをいろいろやっていると、たぶんこう返ってくればいいやっていう感じで、そんなに高い利率とかを求めない投資っていうのも実は今からまちづくりの中では進んでいこうと思います。そんなものも是非手法として提案をしたりだとか、使うモデルを皆さんで作ったりだとか、ビジネスモデルを作ったりだと

か、是非何かやれると面白いですね。ほぼ時間になりそうですが、他にはどうですか。

(委員)

いろいろ思うことがあるんですけど、前向きには考えてますが、ちょっとさっきのヒアリングのところは実は個人的には引っかかって、団体さんをみてて何団体さんかは分かるんですけど、すべてが把握できてるわけではないので正しい意見かどうか分からないんですけど、私も本業を持ちながらこういった活動をしてる中で、いろんな取材であったりいろんなことに時間を割くっていうのは、実は嬉しいんですがかなり負担も大きいんです。ヒアリングに行くことはすごく良いていう話になっていて、ちょっとそこで違和感を感じたのは、ここだけが盛り上がっていてその受ける先ってどうなのっていうヒアリングを事務局さんにしていただいたうえで始める方が良いのかなっていうのが、個人的には思っています。

まったく逆の意見だったので控えたのですが、いろいろお話とかを、何か一緒にしないといけないとかって聞かれたときに、本来ホストにならないといけない立ち位置の人たちが盛り上がりすぎてしまって、なんかこう自分たちが楽しむことで相手のためではなくていう事業とかイベントっていうのをすごく今まで見てきた関係があって、せっかくここまでされていることなので、そうではなくって、本当にいただける人たちであったり、応募される方たちが応募したいって思えるような仕組みづくりっていうのも必要だということを感じました。

(委員長)

非常に重要な観点なので、われわれがヒアリングするっていうスタンスは、当初今のご意見のスタンスでヒアリングは始めたと思いますので、それはきちんと忘れずに、ヒアリングしに行って勉強になったっていうことではなくて、たぶん何を引き出すかとか、そういう人たちの良さをどういう風に表現すれば良いのかっていうことを基軸に議論してきたと思います。そこは向き合い方をきちんとしていかなければいけないと思います。

他はいいですか。これから任期は平成30年3月31日までっていうことになっておりますので、楽しくも、とはいえかなり重要な委員会でもありますので、皆さんの綺譚のない意見をいただいて、新たな仕組みをつくっていくっていうのもそうですし、今動いてるものをきちんと評価をして、スクラップアンドビルドしていくということも非常に重要な役割になっていますので、そのところをぜひよろしくお願ひしたいと思います。

### 【事務連絡】

\*事務局より事務連絡

\*NPO法人まちづくりネット東近江が開催する講座等の紹介

【次回の開催日は、8月30日の午後7時から】

閉会